

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 富野 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学, 英語)の結果

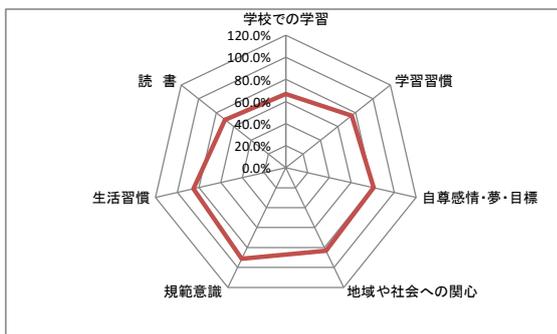
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を下回っていたが、読むことに関する問題は全国平均との差が小さく、文章を読み取る力がついてきている。伝えたい事柄について、根拠を明確にして文章を書く力をつけさせる必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方、文章が説明していることについて検討する問題の正答率は、他の問題の正答率よりも上回っていた。	
	努力が必要な問題	根拠を明確にして、自分の考えを書く問題の正答率は、他の問題の正答率よりも下回っていた。	
数学	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を下回っていたが、グラフ上の点を事象に即して解釈したり、資料の傾向からどの代表値を用いればよいかを判断する問題は、全国平均との差が小さい。 ・文字式を使ったり、数学的な表現を使ったりして説明していく問題に慣れさせる必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	確率の問題、図形の移動、グラフ上の意味を読み取る問題、反例の意味、資料の活用に関する問題は、他の問題の正答率よりも上回っていた。	
	努力が必要な問題	連立方程式、式による説明、反比例の式、図形の証明に関する問題は、他の問題の正答率よりも下回っていた。	
英語	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を下回っていたが、日常的な話題について情報を正確に聞き取る問題は、全国平均との差が小さい。 ・言語や文化についての知識、理解に関する問題の正答率は、他の問題よりも正答率が高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	聞くことに関する問題の正答率は、他の問題の正答率よりも上回っていた。	
	努力が必要な問題	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして英文を書く問題、話すことに関する問題の正答率は、他の問題の正答率よりも下回っていた。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識に関する部分は、全国平均に近い値になっている。 ・総合的な学習の時間や道徳の時間を使って、進路について考える機会の充実を図った。そのため、将来の夢や目標を持ち、人の役に立つ人間になりたいと考えている生徒の割合は全国平均に達してきている。 ・自分で計画を立てて勉強するなど、家庭学習の習慣が身につけてきている。しかし、家庭学習の時間は全国平均よりも下回っているため継続的な取組を行う必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<p>調査結果から明らかになった課題の解決のために、朝読書・授業・補充学習(富野タイム)・自主学習ノート(富野ノート)の一体的な取組を継続・徹底する。</p> <p>①朝読書…文章を読み取る力や文章を書く力が身につくように、継続して取り組む。</p> <p>②授業…自分の考えを書く力を伸ばすために、授業の「まとめ」「振り返り」を自分の言葉で書くことに継続して取り組む。また、根拠を基に説明する力を伸ばすために、「話し合い活動」を充実させる。</p> <p>③補充学習…生徒の実態に合わせた「基礎」「標準」「発展」問題の学習プリントを準備し、きめ細かく対応していく。</p> <p>④自主学習ノート…家庭学習の習慣が身につくように、毎日、自主学習ノートに取り組む。自主学習ノートの提出を徹底する。</p>
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者、教職員、地域、小学校が一体となって学力向上に取り組んで行くために、朝読書・授業・補充学習・自主学習ノートについてまとめた「よい学び方」ハンドブックを配布し、活用していく。 ・学校通信や保健体育科通信を通して、学力・体力向上について啓発活動を行っていく。
